

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	16-138	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol Consumption and Gastric Cancer Risk: A Meta-Analysis. メタアナリシスによる飲酒量と胃ガンのリスクについて		
執筆者		
Ma K, Baloch Z, He TT, Xia X.		
掲載誌		
Med Sci Monit. 2017 Jan 14;23:238-246.		
キーワード		PMID
飲酒、胃ガン、メタアナリシス		28087989
要 旨		
目的： アルコールはアセトアルデヒドの毒性により胃ガンのリスクを上昇することが報告されているが、見解は一致していない。飲酒と胃ガンのリスクの関係について、メタアナリシスによって検討した。		
方法： Medline を用いてシステマティックに文献検索を行い、飲酒と胃ガンのリスクに関連のある出版されたすべての報告を同定した。当初、2,494 報告が確認されたが、本研究の対象基準（症例対照研究であること、病理結果に基づく胃がん診断、1995-2015 年の報告）と除外基準（80 症例未満）を応用した結果、10 報告が本研究のメタアナリシスに応用可能であった。		
結果： メタアナリシスの結果、飲酒はオッズ比 1.39（95%信頼区間 1.20-1.61）で胃ガンのリスクをためる。加えて、サブ解析の結果、スウェーデンのネステッドケースコントロール研究の結果だけが、メタアナリシスの結果と一致しなかった。飲酒量別のサブ解析では、適度な飲酒や多量飲酒において、飲酒は胃ガンのリスクを高めることが確かめられた。出版バイアス（Begg's and Egger's test）の分析の p 値は 0.05 より大きく、今回のメタアナリシスに含まれた 10 報告には出版バイアスがないことが示唆された。		
結論： このメタアナリシスの結果は飲酒が胃ガンのリスクを高めるという仮説を支持する。このことは、飲酒量を控えめにすることで胃ガンのリスクを減らす可能性を示している。		